

1. 若年者はどのような教育を受けているか？
2. 持続可能な生活のために
どのようなライフスタイルを志向しているか？
3. 消費者情報の活用・分析の事例

○ 消費者志向経営 とは？

▶ 「消費者」と「共創・協働」して「社会価値」を向上させる経営

消費者 とは？

自社の商品・サービスに、**現在**または**将来**関わる、あらゆる**すべての方が対象**

- ・購入者
- ・従業員
- ・取引先
- ・エンドユーザー
- ・地域住民
- ・・・など



共創・協働 とは？

事業者と消費者の**双方向のコミュニケーション**により、**WIN-WINの関係を構築**すること



社会価値 とは？

本業を通じ、**地域や社会の課題解決に寄与し、社会全体の持続可能性の向上を目指す**ことから生み出されるもの

例えば…

SDGs達成への貢献

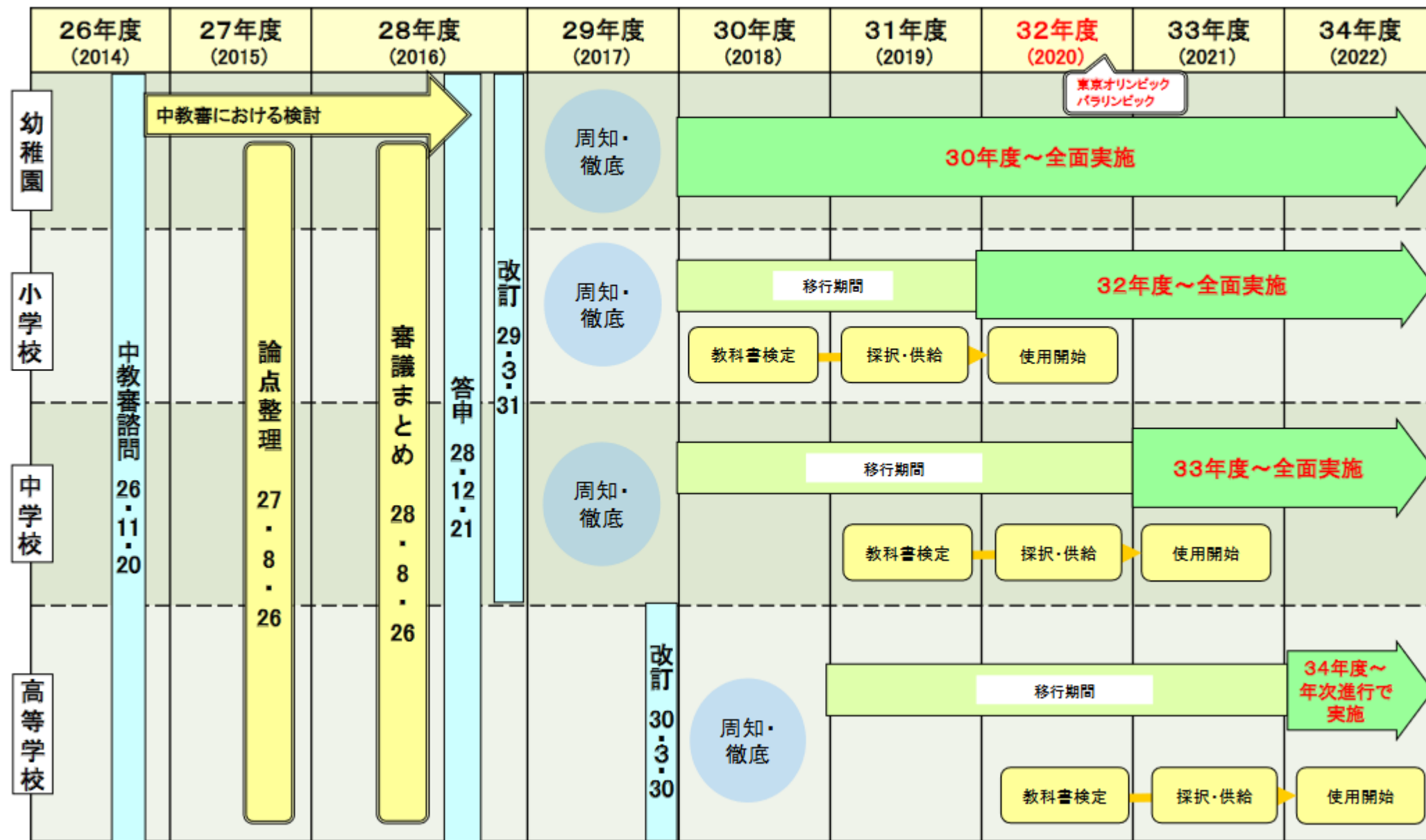


地域活性化



出典:消費者庁

今後の学習指導要領改訂に関するスケジュール



1. 教育について 学習指導要領とその運用

2016年12月21日 中央教育審議会答申

「幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」

2018年3月30日 新学習指導要領の改訂・公示

およそ4年

2022年4月1日 新学習指導要領の実施開始

4観点の評価方法

「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」

3観点の評価方法

「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」

新学習指導要領

学習指導要領の改訂はほぼ10年に1回改訂

教科書はほぼ5年に1回改訂

小学校 2017.3.31 改訂 2017 年周知、2018年～教科書検定
2020年 全面実施

中学校 2017.3.31 改訂2017周知 2018年～教科書検定、
2021年 全面実施

高等学校 2018年 3.31 改訂、2018年周知、2020年～教科書検定
2022年から年次進行で実施

家庭科の内容

A 家族・家庭生活

B 衣食住の生活

C 消費生活・環境

C 消費生活・環境 分野

- 「持続可能な社会」の構築に向けて身近な消費生活と環境を考え、工夫する活動を通して、物や金銭の使い方と買物について、買物の仕組みや消費者の役割が分かり、物や金銭の大切さと計画的な使い方について理解することが重要であるとされている。
- その際、購入に必要な情報を活用し、身近な物の選び方、買い方を考え、工夫することも重要である。これはいわゆる「消費者教育」といわれる分野である。
- また、持続可能な社会の構築を目指し、（環境）問題を解決するためのいわゆる「環境教育」という分野がある。これらも家庭科教育との関連が深い。

小学校・中学校・高校の家庭科 C分野の内容

小学校（5～6年生）家庭編	中学校（7～9年生）技術・家庭編	高校（10～12年生）家庭編	
A 家族・家庭生活 B 衣食住の生活 C 消費生活・環境 （1）物や金銭の使い方と買物 ア（ア）買物の仕組みや消費者の役割，物や金銭の大切さ，計画的な使い方 イ（イ）身近な物の選び方，買い方，情報の収集・整理 イ 身近な物の選び方，買い方の工夫 （2）環境に配慮した生活 ア 身近な環境との関わり，物の使い方 イ 環境に配慮した物の使い方の工夫	家庭分野 A 家族・家庭生活 B 衣食住の生活 C 消費生活・環境 （1）金銭の管理と購入 ア（ア）購入方法や支払い方法の特徴，計画的な金銭管理 イ（イ）売買契約の仕組み，消費者被害，物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理 イ 情報を活用した物資・サービスの購入の工夫 （2）消費者の権利と責任 ア 消費者の基本的な権利と責任，消費生活が環境や社会に及ぼす影響 イ 自立した消費者としての消費行動の工夫 （3）消費生活・環境についての課題と実践 ア 環境に配慮した消費生活についての課題と計画，実践，評価	家庭基礎（2単位） A 人の一生と家族・家庭及び福祉 B 衣食住の生活の自立と設計 C 持続可能な消費生活・環境 （1）生活における経済の計画 ア 家計の構造や生活における経済と社会との関わり，家計管理について理解すること。 イ 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について，ライフステージや社会保障制度などと関連付けて考察すること （2）消費行動と意思決定 ア 消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題，消費行動における意思決定や契約の重要性，消費者保護の仕組みについて理解するとともに，生活情報を適切に収集・整理できること。 イ 自立した消費者として，生活情報を活用し，適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について考察し，工夫すること。 （3）持続可能なライフスタイルと環境 ア 生活と環境との関わりや持続可能な消費について理解するとともに，持続可能な社会へ参画することの意義について理解すること。 イ 持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう，安全で安心な生活と消費について考察し，ライフスタイルを工夫すること。	家庭総合（4単位） A 人の一生と家族・家庭及び福祉 B 衣食住の生活の科学と文化 C 持続可能な消費生活・環境 （1）生活における経済の計画 ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 （ア）家計の構造について理解するとともに生活における経済と社会との関わりについて理解を深めること。 イ（イ）生涯を見通した生活における経済の管理や計画，リスク管理の考え方について理解を深め，情報の収集・整理が適切にできること。 イ 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について，ライフステージごとの課題や社会保障制度などと関連付けて考察し，工夫すること。 （2）消費行動と意思決定 ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 （ア）消費生活の現状と課題，消費行動における意思決定や責任ある消費の重要性について理解を深めるとともに，生活情報の収集・整理が適切にできること。 イ（イ）消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう，消費者問題や消費者の自立と支援などについて理解するとともに，契約の重要性や消費者保護の仕組みについて理解を深めること。 イ 自立した消費者として，生活情報を活用し，適切な意思決定に基づいて行動できるよう考察し，責任ある消費について工夫すること。 （3）持続可能なライフスタイルと環境 ア 生活と環境との関わりや持続可能な消費について理解するとともに，持続可能な社会へ参画することの意義について理解を深めること。 イ 持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう，安全で安心な生活と消費及び生活文化について考察し，ライフスタイルを工夫すること。
		D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

高校家庭科 教科書の例

家庭基礎 教育図書221頁中

- A領域 家族・子ども・高齢者 6-71 66頁(30%)
- B領域 衣食住 96頁(43%)
食74-125(52頁)、衣126-151(26頁)、住152-169(18頁)
- C領域 消費生活と環境 32頁(14%)
消費者170-187(18頁)、経済188-193(6頁)・人生設計194-201(8頁)

実践 領域C 持続可能な消費生活・環境の内容(6~12時間)

授業内容

領域C 持続可能な消費生活・環境

「消費生活の現状」

「金銭の管理」

「トラブルと権利・救済」

「消費者の自立と環境」

1時間目: スマホ版「人生設計ゲーム」を用いた人生に係る費用の理解

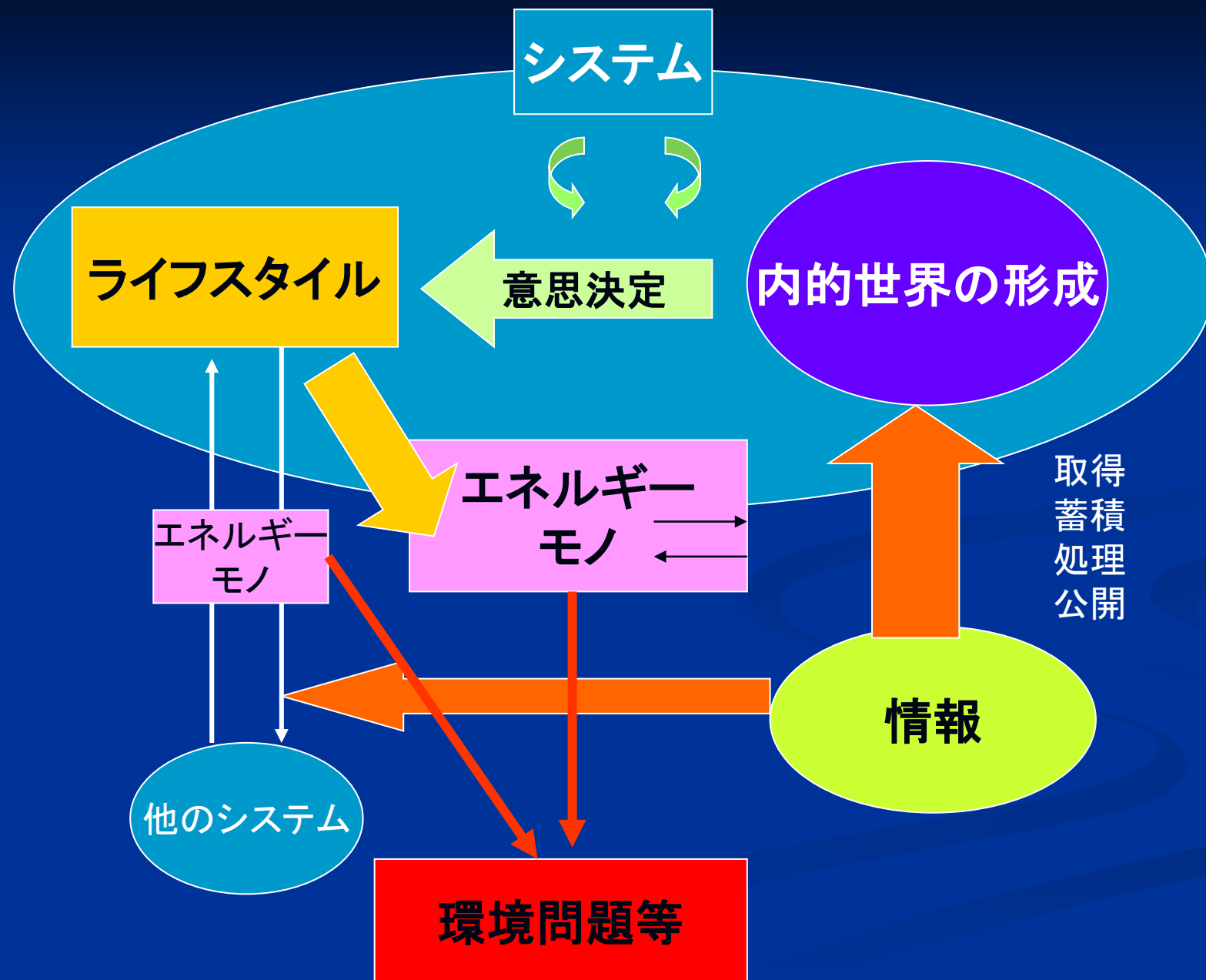
2時間目: 家計構造とキャッシュレス社会でのお金の管理

3時間目: 大学の費用と奨学金、ネットでのクレジットカードの利用等負債の管理

4時間目: スマホによる契約と消費者救済

5時間目: 消費者契約法と消費者市民への行動

6時間目: 購入とSDGsの視点、ムヒカ大統領のスピーチ



2. 持続可能な生活のために
どのようなライフスタイルを志向しているか?

若者の環境意識と行動

I. 目的

資源多消費型社会⇒節約消費型社会への転換

環境問題を学習するほど、環境倫理が高まり、消費行動に反映する

環境消費者教育(環境配慮行動を商品購入に結びつける)、環境責任=環境倫理



個人の生活に踏み込んで考える必要がある

一人一人の意識と行動が重要

特に次世代を担う若者による環境問題の理解と行動が重要



- ◆現代の若者は環境問題をどのようにとらえ、理解し、行動に移しているのか明らかにする
- ◆環境にやさしい行動を促すための指針を得る

Ⅱ. 方法

1. 環境意識と行動の実態調査

大学生 733人
高校生 48人
中学生 110人
小学生 159人

計1,050人に左の4つの視点を含んだアンケート調査後、単純集計、数量化Ⅲ類、クラスター分析を行った。

「関心・意識」

「思考・判断」

「実践・行動」

「教育」

(1)「関心・意識」(5項目)

関心のある環境問題、現在知っていること、日常生活と環境問題への意識

- ①どんな環境問題に興味がありますか
- ②3Rや4Rについて知っていますか
- ③自分の家で生ごみが1日にどれくらい出ているか知ってますか
- ④あなたが通っていた小・中学校の給食で、全校で1日に食べ残しがどれくらい出ていたか知っていますか
- ⑤分別回収されたごみがどう処理されているか知っていますか

(2)「思考・判断」(6項目)

自分の生活が環境に影響を与えていると思うかなど、自分の実生活の捉え方と改善意識

- ①環境問題はとても身近な問題だと思いますか
- ②日常生活が環境に影響を与えていると思いますか
- ③環境問題は科学技術だけで解決できると思いますか
- ④人が生活するためならたくさんのごみを捨てても構わないと思いますか
- ⑤環境問題を解決するには自分の生活スタイルを変えなければならないと思いますか
- ⑥ごみが集まる集積場では、分別されているはずなのに、本来入っていないものが入っていることがあると思いますか

(3)「実践・行動」(3項目)

環境問題は誰が取り組むべきかなど、実践への意欲と現在行っている保全活動

- ①環境問題は誰が取り組むべきものだと思いますか
- ②環境について誰かと話しますか
- ③あなたの家では生ごみをどうしていますか

(4)「教育」(2項目)

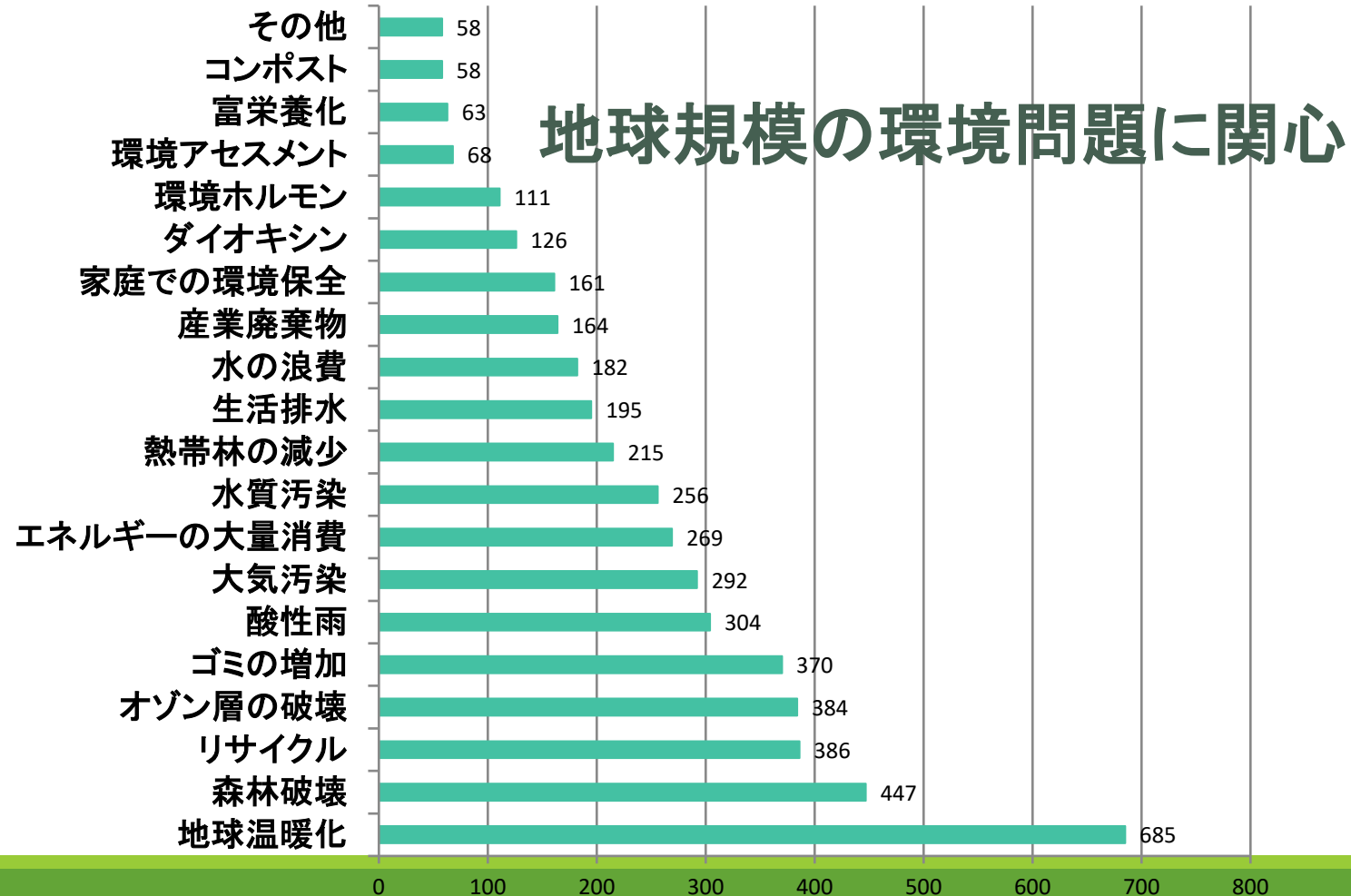
環境教育の必要性和経験

- ①環境問題に関する授業を受ける必要があると思いますか
- ②過去に環境問題に関する授業を受けたことがありますか

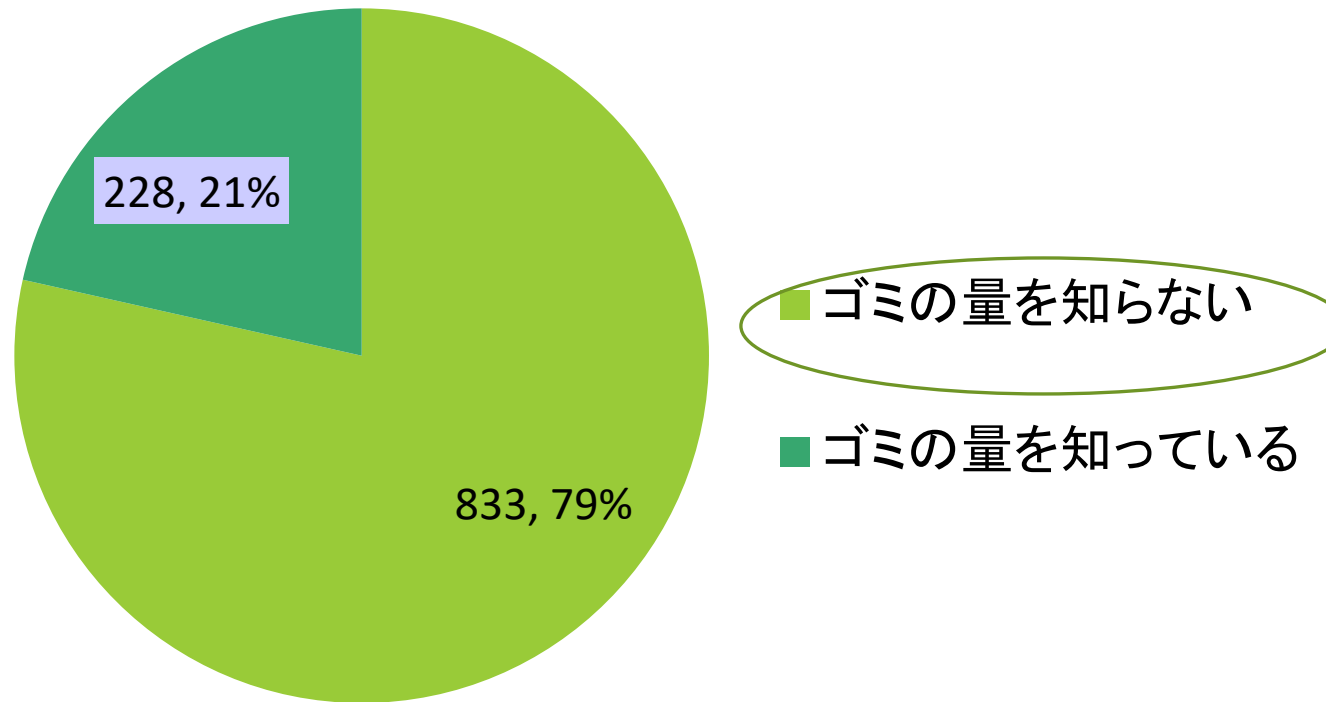
Ⅲ. 結果

(1) 関心・意識

① どんな環境問題に興味がありますか?(人)



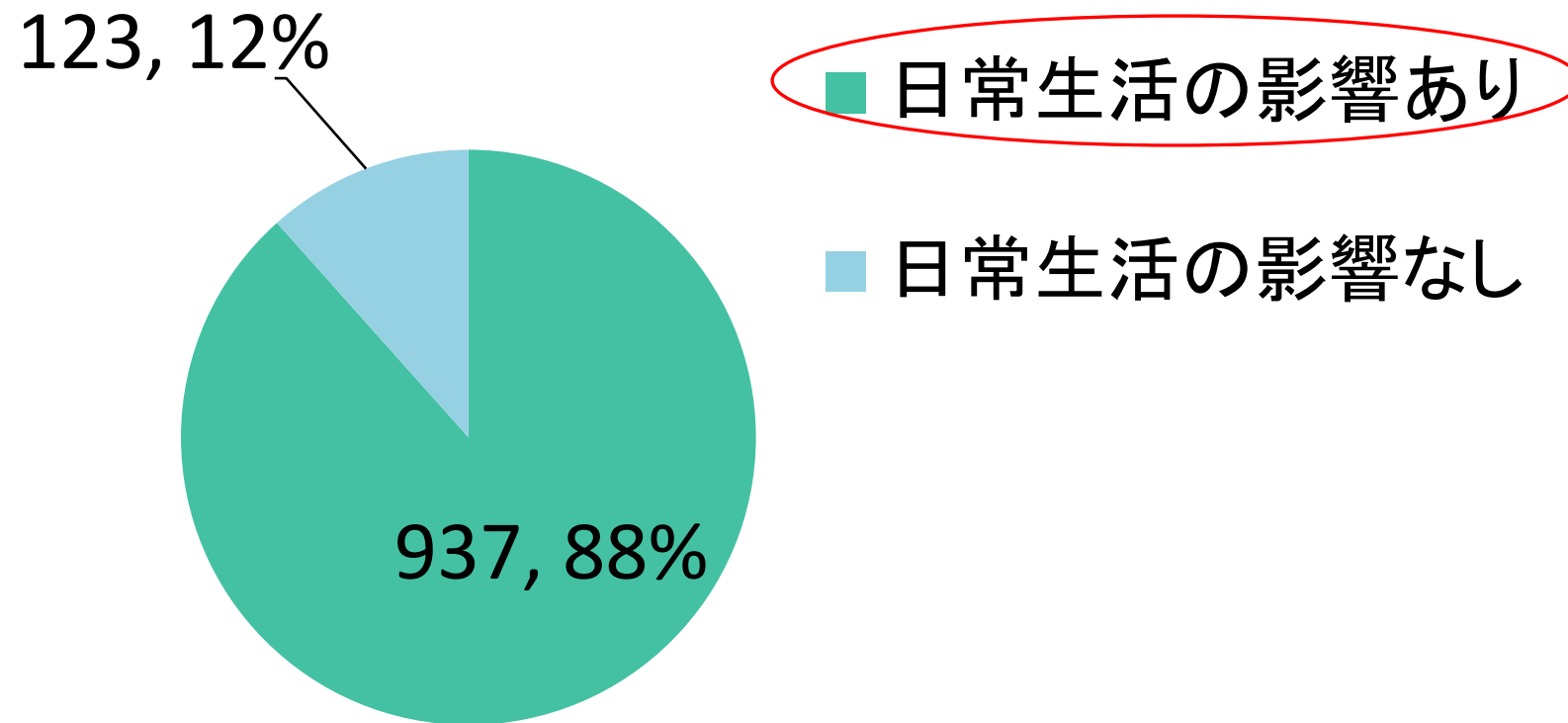
②自分の家でゴミが1日にどれくらい出ているか知っていますか?(人数、%)



78.6%の人がゴミの量を知らず、日常的に家事などを行っていない

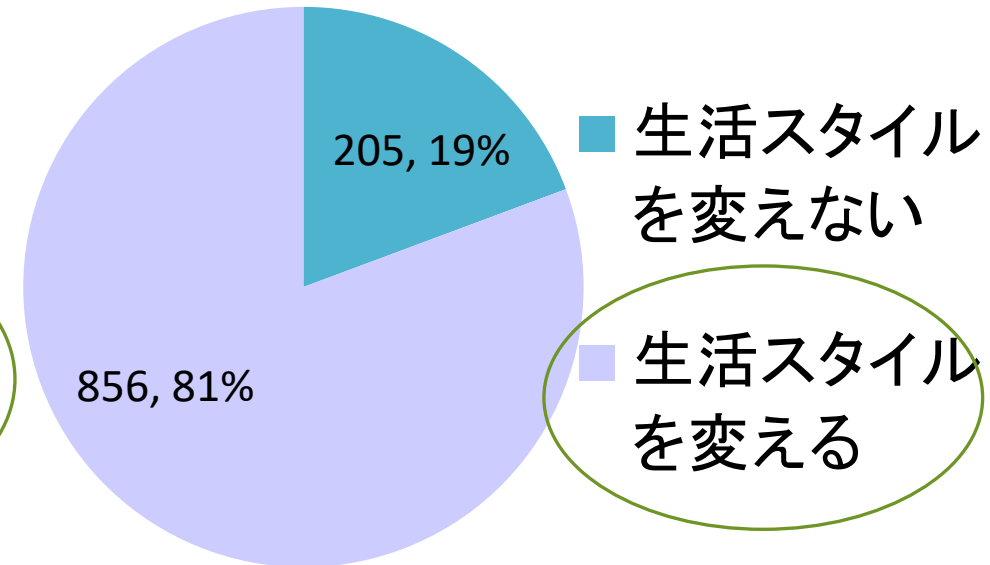
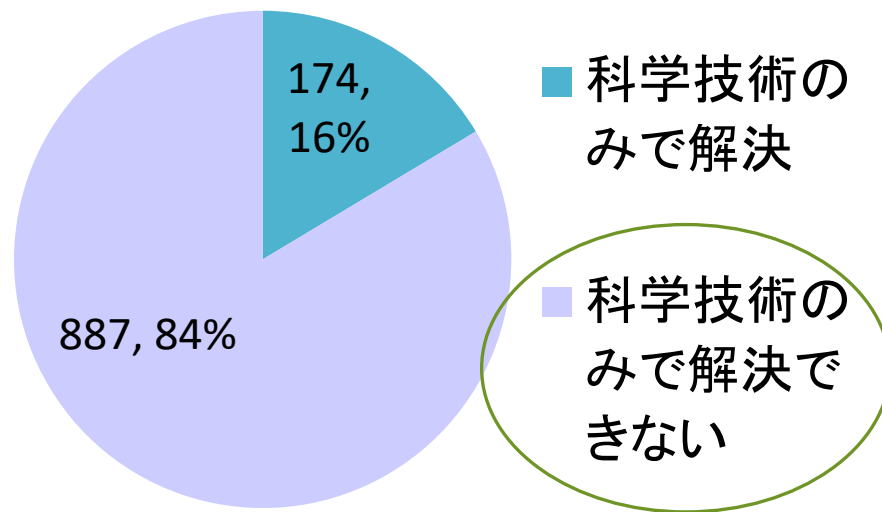
(2)思考・判断

①日常生活が環境に影響を与えていると思いますか？



②環境問題は科学技術のみで解決できると思いますか？

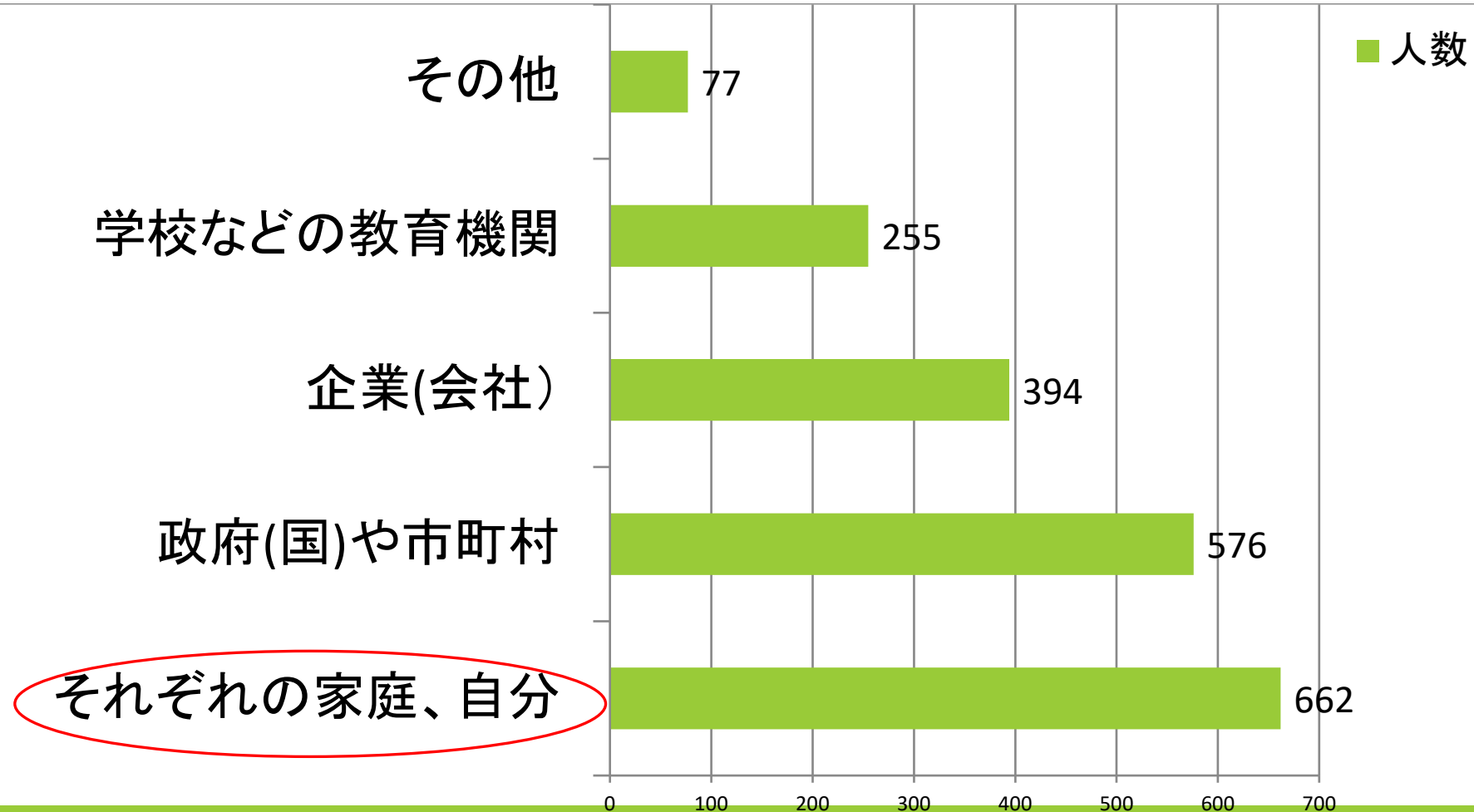
③環境問題を解決するためには自分の生活スタイルを変えなければならないと思いますか？



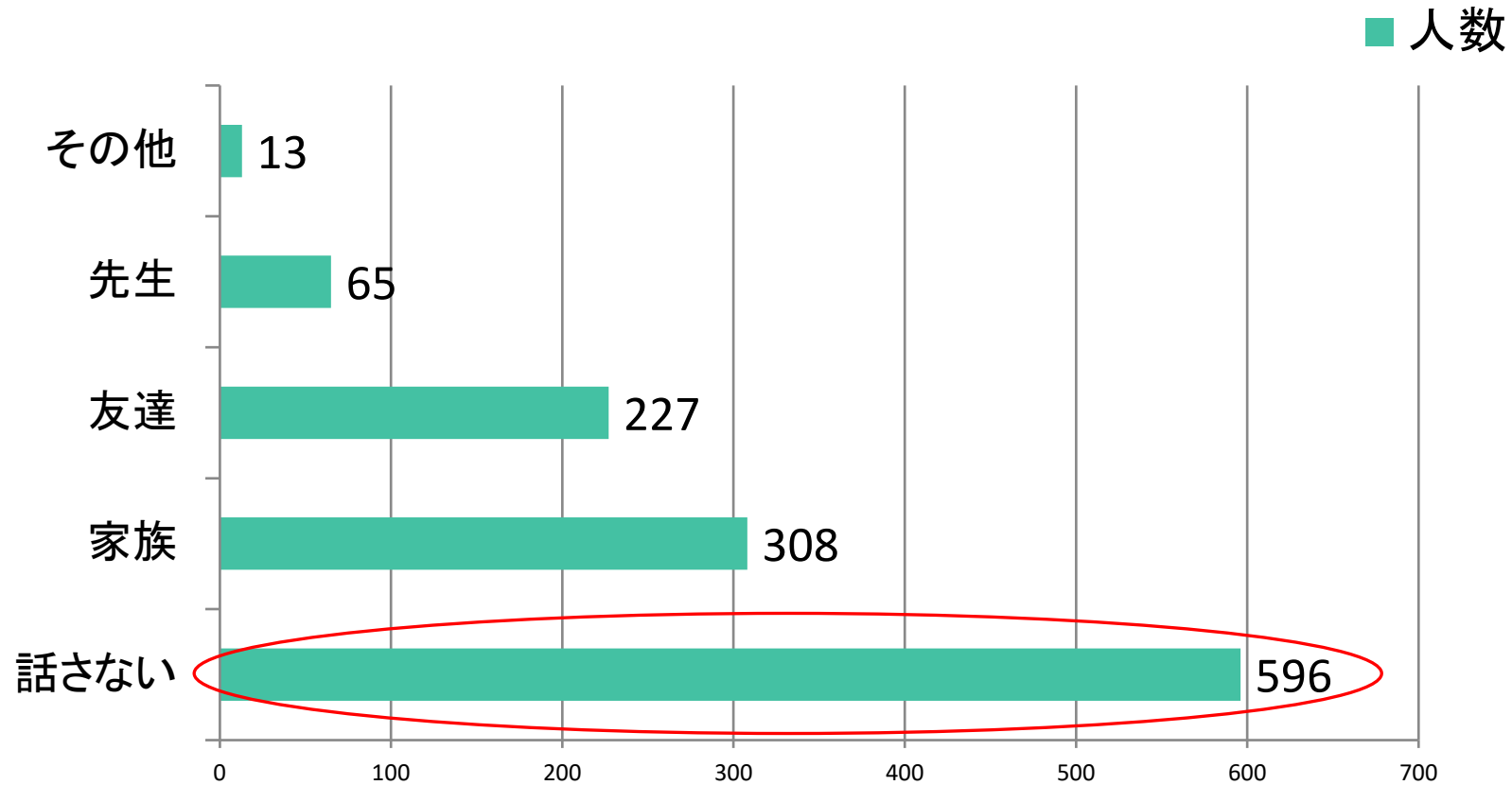
日常生活と環境問題のつながりを強く感じている

(3)実践・行動

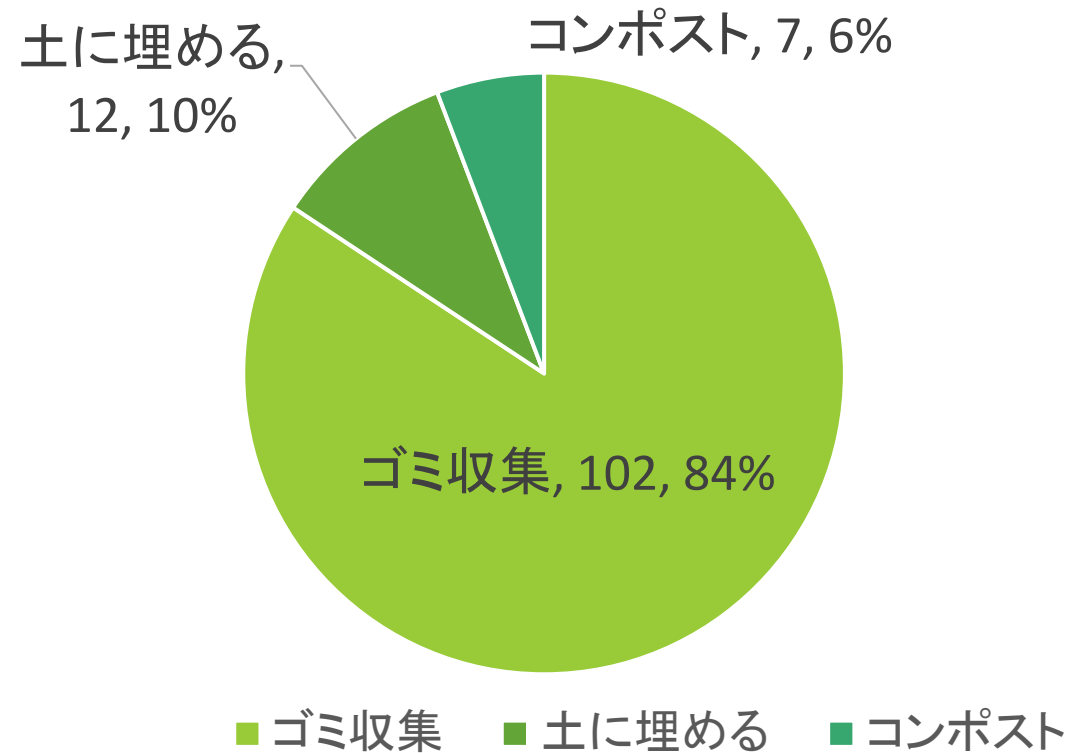
①環境問題は誰が取り組むべきものだと思いますか？



②環境について誰かと話しますか



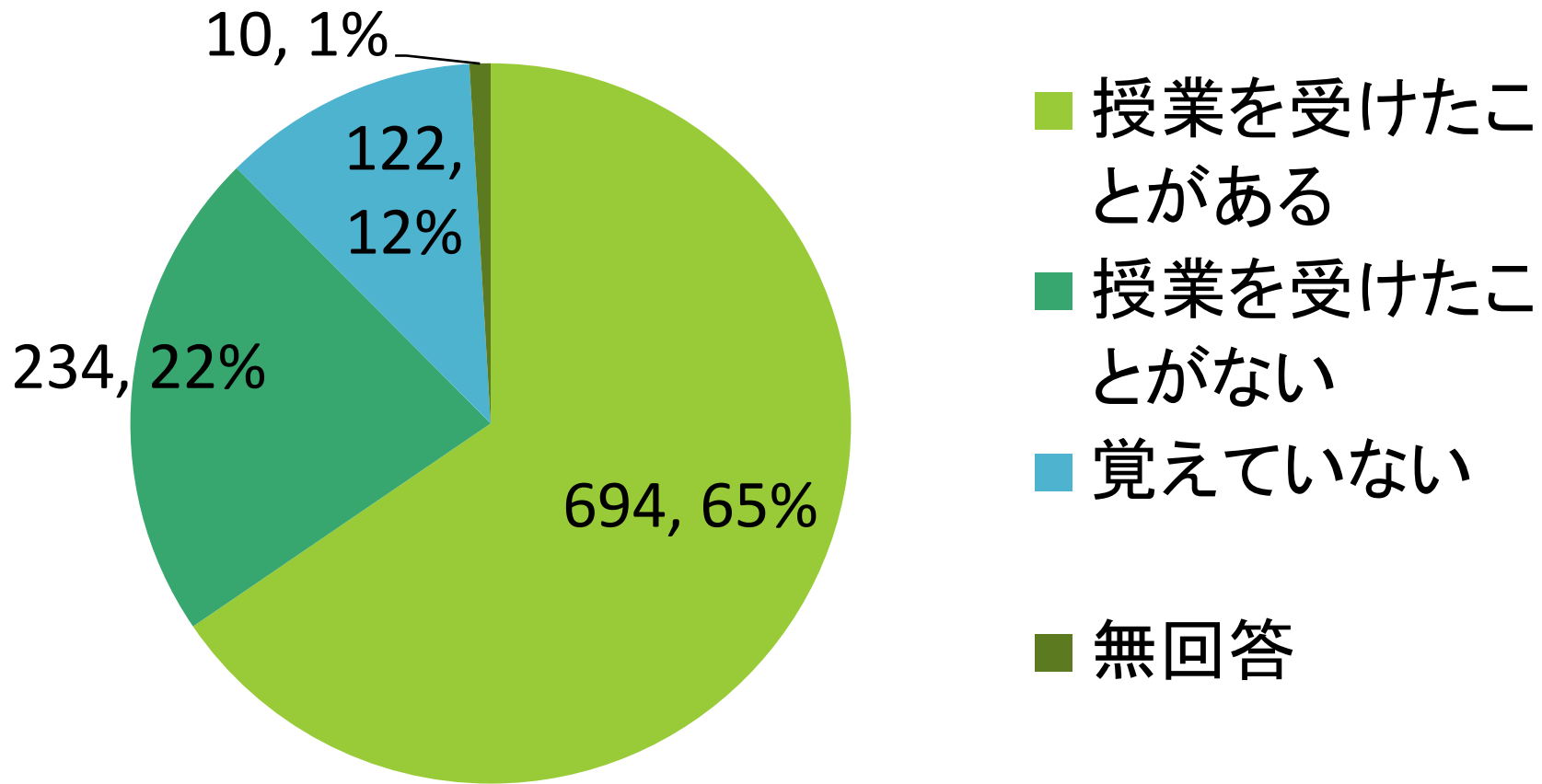
③生ゴミをどうしていますか？



実践・行動にまでは結びついていない

(4)教育

①過去に環境問題に関する授業を受けたことがありますか



単純集計のまとめ

- ニュースで取り上げられるような、地球規模の環境問題に関心を持っている
- 環境問題と自分の生活は深く関係していると思っている
- 自分たちそれぞれが環境問題に取り組むべきだと実行意欲のある人も多い
- 一方、家のごみ量を知らない、環境問題について誰とも話さない割合が高く、世代的にも日常生活とはあまり結びついていない人が多い
- 教育経験はばらつきがある

方法2. 環境意識、行動による類型化

(1) 数量化Ⅲ類による分類

環境意識・行動による若者の違いを明らかにするために数量化Ⅲ類による環境基本軸を析出

数量化Ⅲ類とは・・・

- * 質的データの分析に用いる
- * 多数の項目に対する個人の反応パターンをもとに分析
- * 多くの質問を少数の変数(軸)に変えてデータの持っている意味を解析
- * 調査対象者の質問に対する反応パターンから基本軸をだし、各軸に対する寄与を分析し、各軸の意味づけを行う

数量化Ⅲ類による分類に用いた質問

関心・意識

- ①地球温暖化に興味あり
- ②リサイクルに興味あり
- ③環境アセスメントに興味あり
- ④産業廃棄物に興味あり
- ⑤家でのごみの量を知っている

思考・判断

- ①日常生活に影響あり
- ②日常生活の影響なし
- ③科学技術のみで解決できない
- ④生活スタイルを変えない

実践・行動

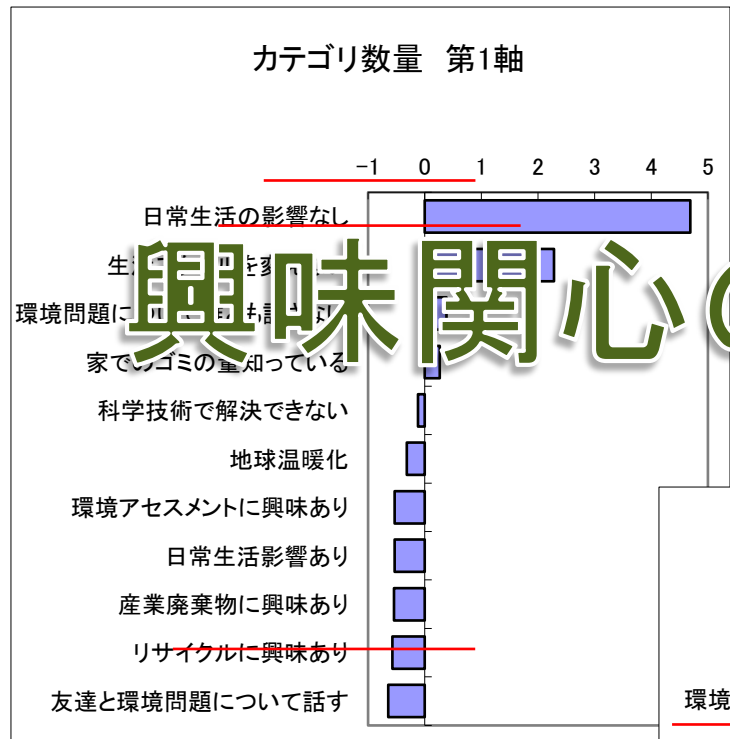
- ①友達と環境問題について話す
- ②話さない

結果3.

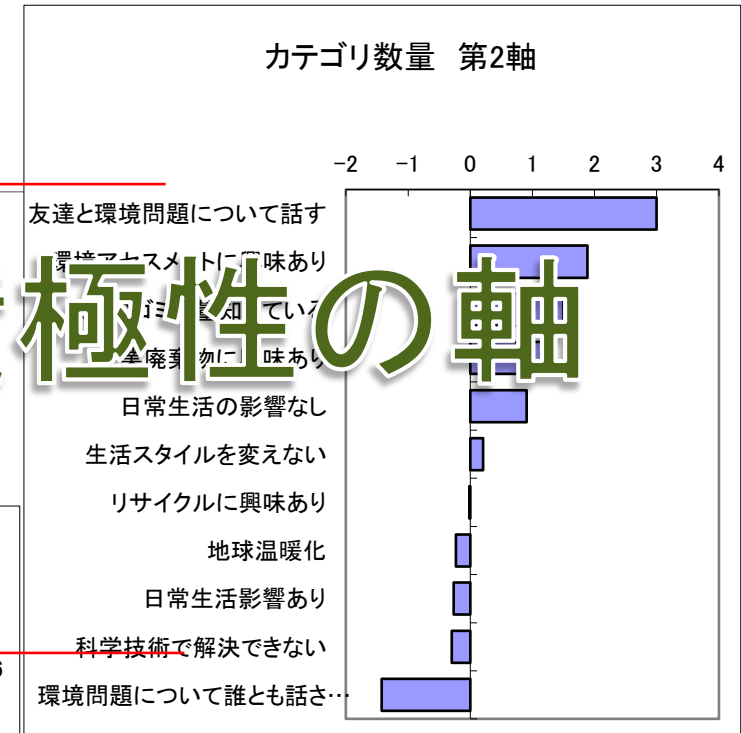
数量化Ⅲ類

	固有値	寄与率	累積寄与率	相関係数
第1軸	0.3393	22.54%	22.54%	0.5825
第2軸	0.2468	16.40%	38.94%	0.4968
第3軸	0.1872	12.43%	51.38%	0.4326

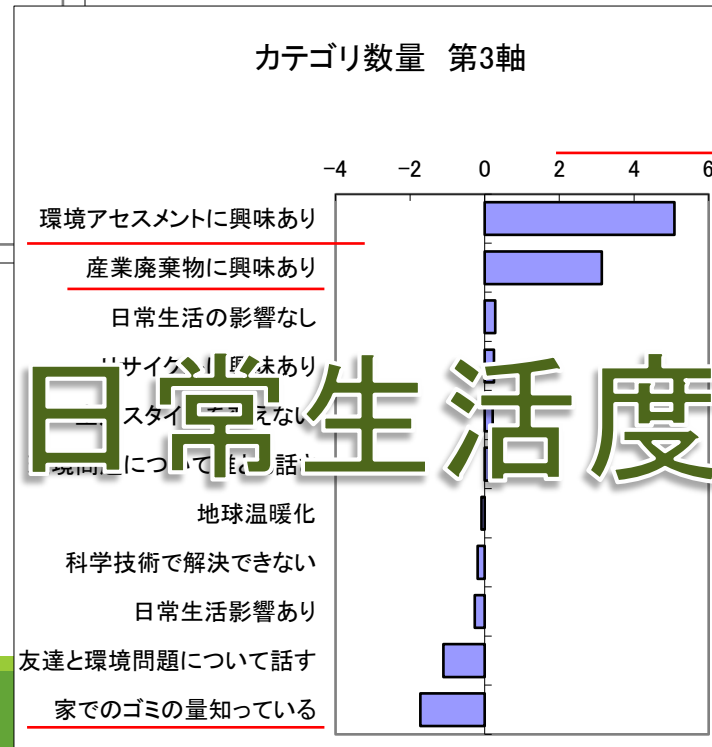
環境意識、行動による若者の類型化



興味関心の軸



積極性の軸



日常生活度

(2) クラスター分析による分類

クラスター分析とは...

異なる性質のものが混ざり合っている集団



互いに似たものを集めて集落(クラスター)を作る



対象を分類

数量化Ⅲ類で得た3つの軸に対する各個人の得点をもとにクラスターをかけ1,050人を4つのグループに分類した

環境意識、行動による若者の類型化

	クラスター1	クラスター2	クラスター3	クラスター4
人数	513人	244人	197人	106人
1軸 「興味関心」	興味関心 ◎	興味関心 ◎	興味関心 ◎	興味関心なし ×
2軸 「積極性」	非積極性 ×	積極性 ◎	積極性 ◎	やや非消極性 △
3軸 「日常生活度」	日常性 ◎	日常性 ◎	非日常性 ×	やや非日常性 △
特徴	興味はあるが、 行動的でない	興味もあり、積 極的で日常生活 度が高い	興味があり、積 極的だが、日常 生活度が低い	興味もなく、行動 的でない
グループ名	興味関心・ 非積極・ 日常型	興味関心・ 積極・ 日常型	興味関心・ 積極・ 非日常型	興味関心なし・ 非積極・ 非日常型

4. 環境グループから見た若者の特徴

(1) 男女別特徴

()内%

	男	女	合計
クラスター1 「興味関心・非積極・日常型」	212(41.3)	301(58.7)	513
クラスター2 「興味関心・積極・日常型」	106(43.4)	138(56.6)	244
クラスター3 「興味関心・積極・非日常型」	105(53.3)	92(46.7)	197
クラスター4 「興味関心なし・非積極・非日常型」	55(51.9)	51(48.1)	106
合計	478(45.1)	582(54.9)	1060

有意確率 *

(2) 校種別特徴

()内%

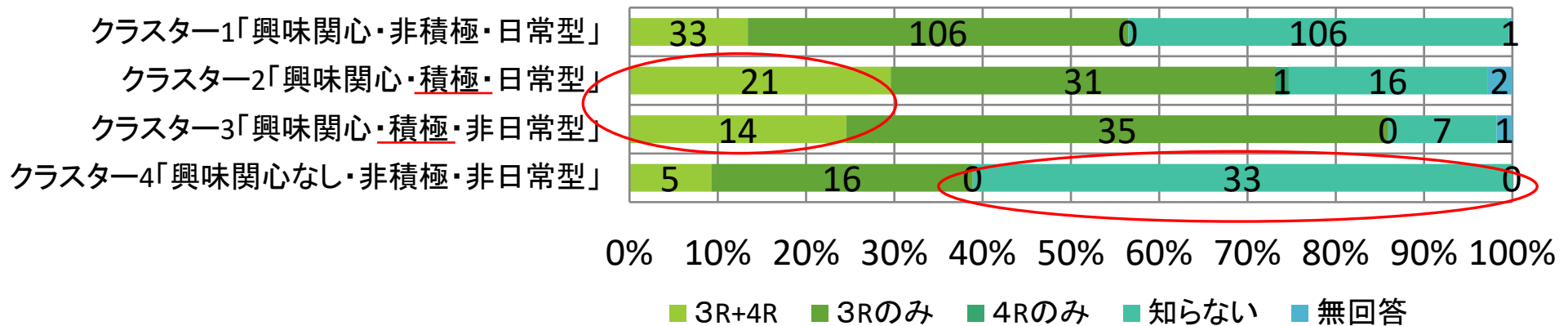
	小学生	中学生	高校生	大学生	マオリ	合計
クラスター1 「興味関心・非積極・日常型」	76(48)	85(77)	34(71)	318(43)	0(0)	513(48.9)
クラスター2 「興味関心・積極・日常型」	38(24)	14(13)	8(17)	183(25)	1(10)	243(23.1)
クラスター3 「興味関心・積極・非日常型」	8(5)	7(6)	0(0)	173(24)	9(90)	188(17.9)
クラスター4 「興味関心なし・非積極・非日常型」	37(23)	4(4)	6(12)	59(8)	0(0)	106(10.1)
合計	159	110	48	733	10	1050(100)

有意確率 ***

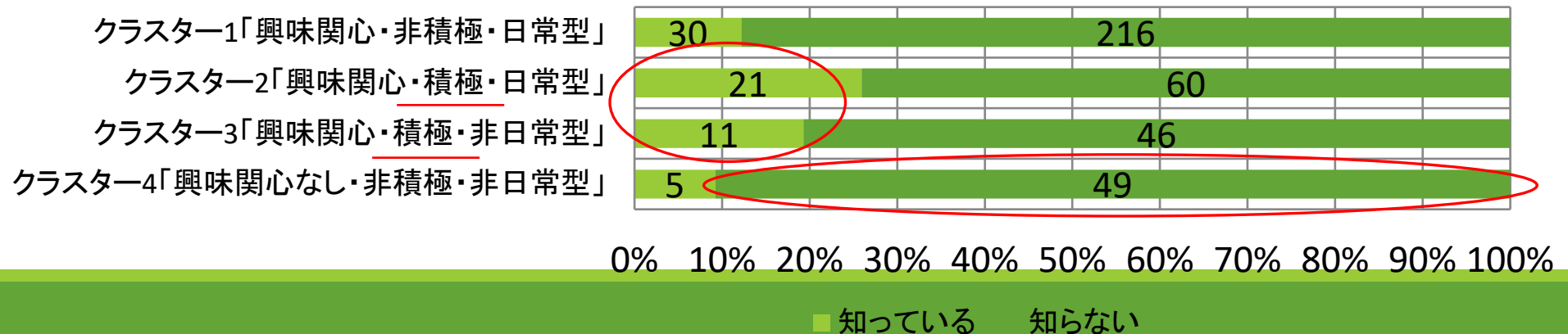
5. 環境グループから見た若者の環境意識と行動

(1)「関心・意識」

①3R/4Rの認知度

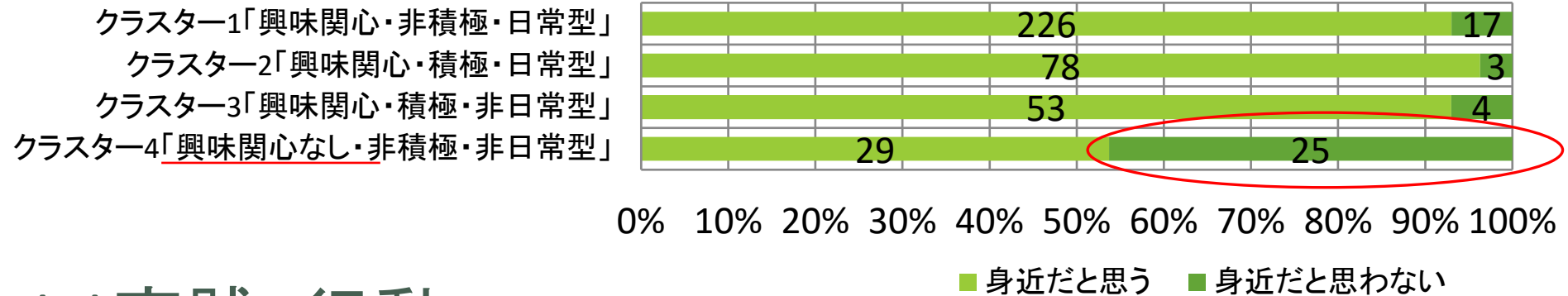


② 給食残飯量の認知度



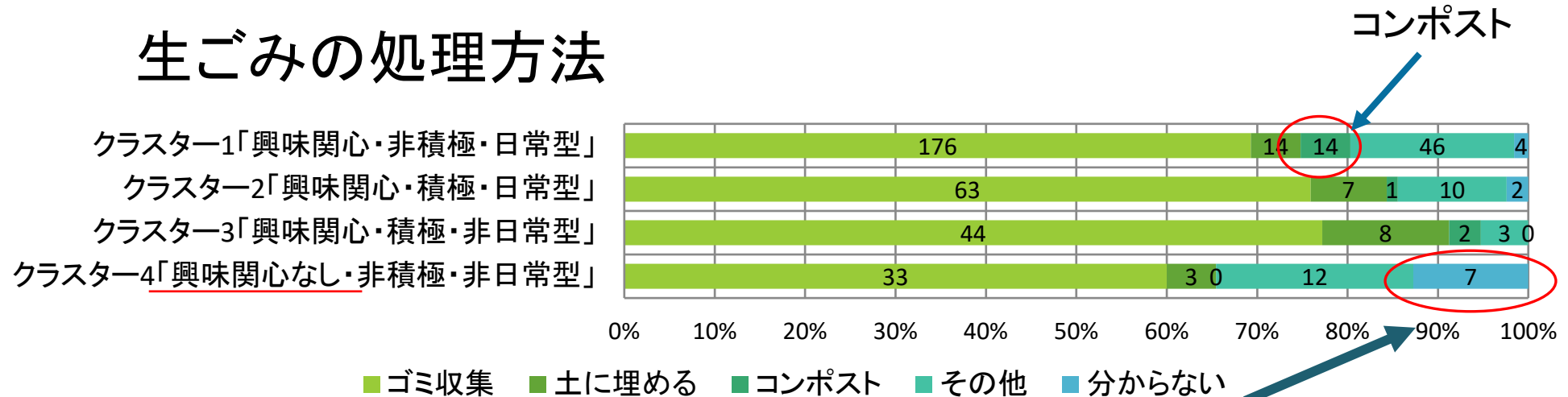
(2)思考・判断

環境問題は身近か



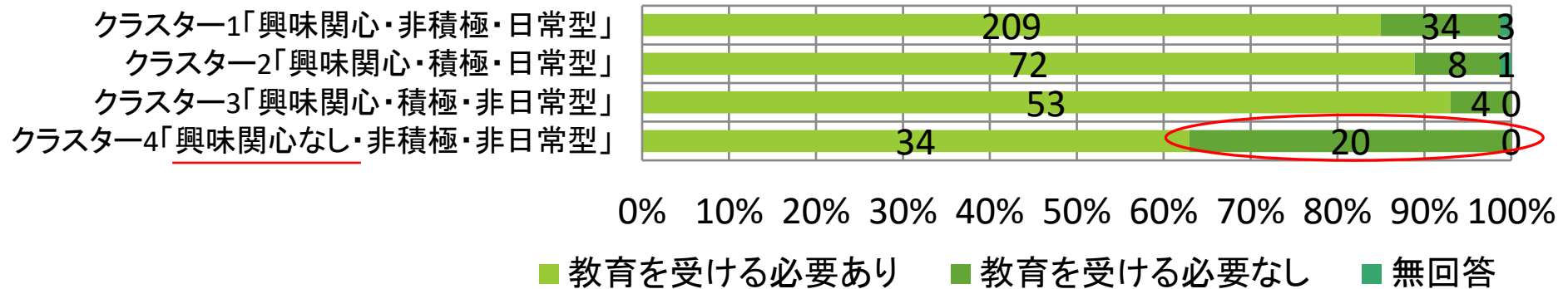
(3)実践・行動

生ごみの処理方法

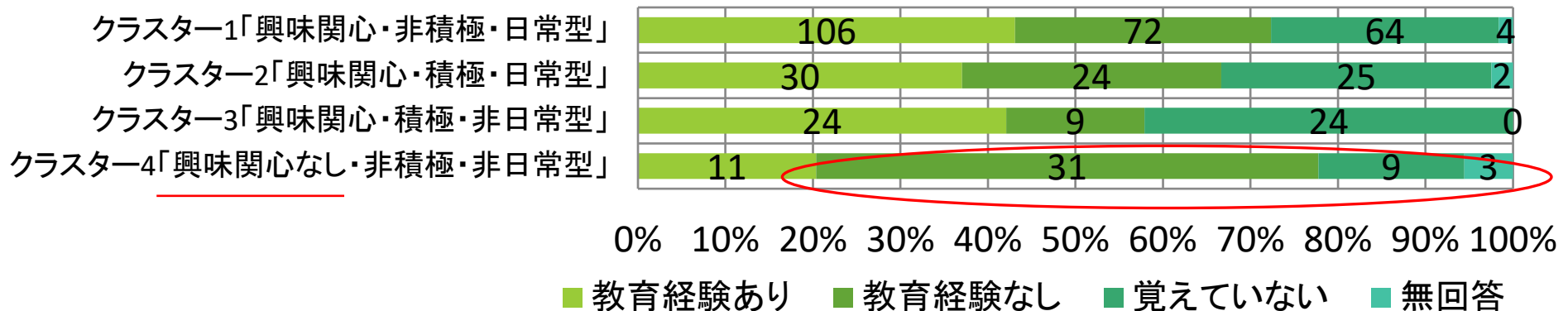


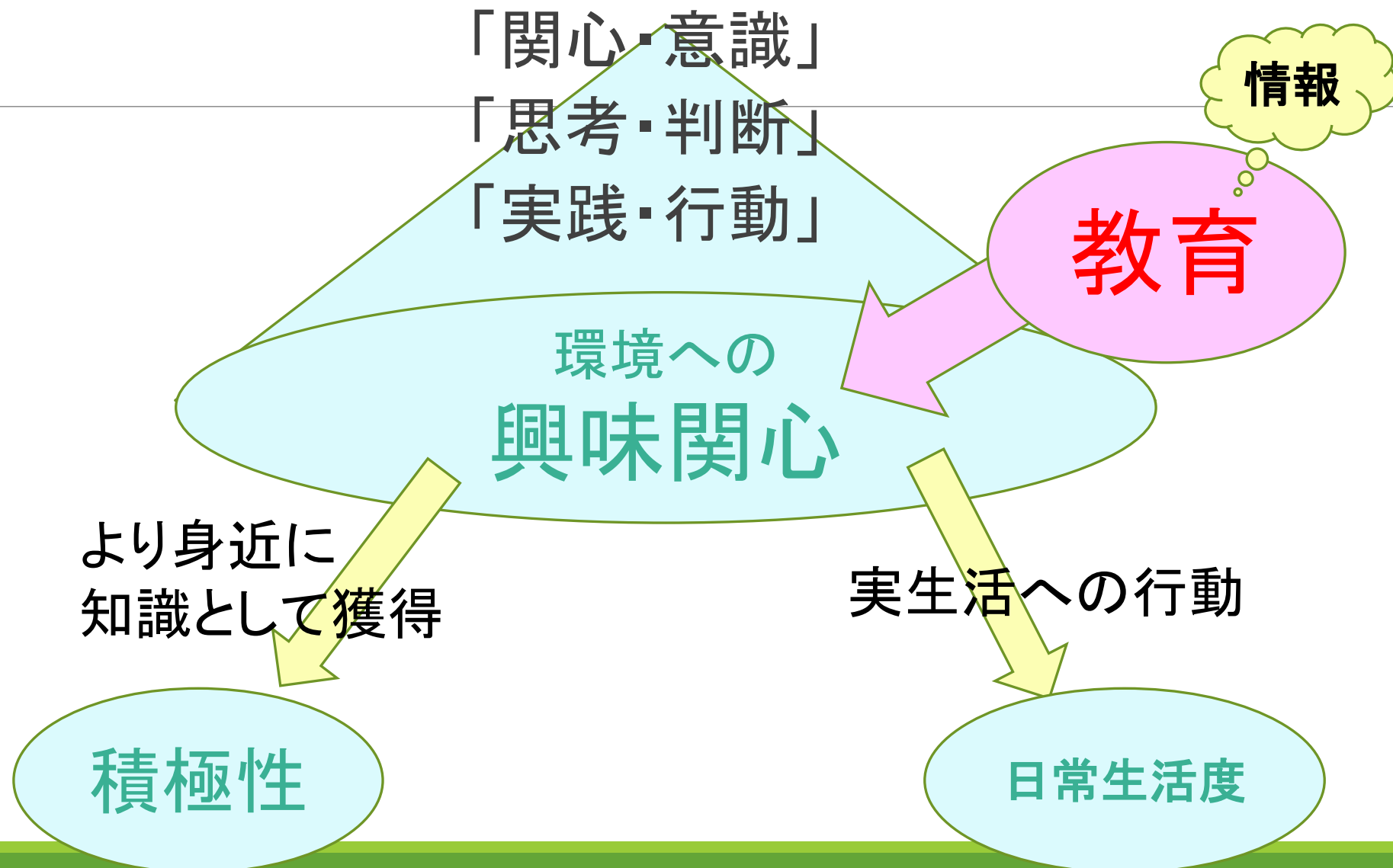
(4)教育

①環境教育の必要性



②環境教育受講の有無

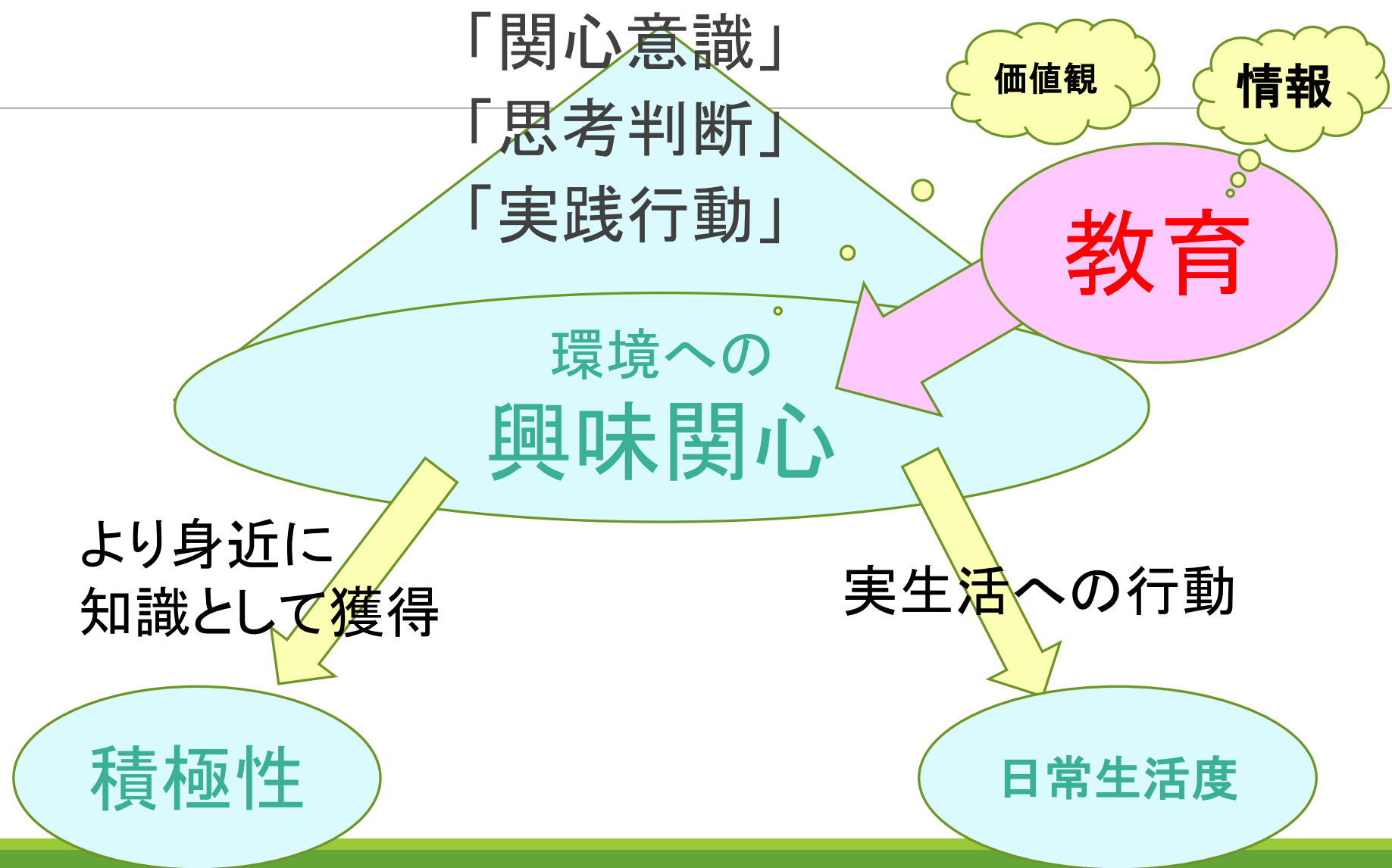




7. 環境に優しい行動を促すために

- ◆若者：地球規模の環境問題に関心。自分の生活と環境問題は密接に結びついていると感じている。しかし、実際の行動に移すことができてる人は少ない。
- ◆どのような人が身近に環境問題を捉え、行動に移せているのか
⇒行動が実践されるには、環境への**興味**が非常に重要である
- ◆その興味の上に、身近に環境問題を捉えることと、知識として環境問題を獲得することは、積極性と関係があり、家での実践的な行動に移せるかどうかは、**日常生活度**に大きく関係している。
- ◆環境問題についての情報を捉えやすい人も、日常的な環境意識が高い人
- ◆環境にやさしい行動を促すためには、**根本的に環境への興味**を持つきっかけが必要

-
- ◆知る場の必要性。「知る場」の一つの方法が教育。
 - ◆興味関心のある人は**教育経験**のある人
 - ◆「知る場」を与え、環境への**興味関心を高める**ことが環境にやさしい行動を促すための一歩である
 - ◆どのようなことができるかという方法を教えることも重要であるが、より**根本的な考え方を根付かせる教育**が重要となる。



3. 消費者情報の活用・分析の事例

消費者の情報活動と家庭ごみの減量

I.目的

消費者の**情報活動**の違いがごみの減量にどのような影響を与えるかを明らかにする

調査対象・・・愛知県内519世帯
有効回答数:479世帯
人数:1531人
男:736人、女:795人

Ⅱ. 方法

- ①消費者のライフスタイル(買い物、食事・ごみの意識・実態)
情報活動アンケートの単純集計
- ②情報活動とライフスタイル(買い物、食事・ごみの意識・実態)と
のクロス集計
- ③情報活動による世帯の類型化
数量化Ⅲ類、クラスター分析によるグループ分類
- ④グループ別のライフスタイルの特徴、購入量、ごみ量の分析

調査内容

(1) ライフスタイルと情報の意識・実態調査

ライフスタイル(買い物、食事・ごみ)アンケート
情報アンケート

(2) 食品購入調査

購入した食品の種類と重さを記録

(3) 生ごみ調査

生ごみの発生原因別(調理くず、賞味期限切れ、食べ残し)に重さを測定

(4) 容器包装調査

食品に関する容器包装(プラスチック、紙など)の重さを測定。

(5) ごみ減量実践

前半1週間・・・これまでどおりの生活

後半1週間・・・ごみ減量に取り組む

Ⅲ.結果 1.ライフスタイルの意識・実態調査

①買い物に関する意識・実態

内 容	人数	割合(%)
コマーシャルや広告を見ていると、すぐに商品を買いたくなる	306	63.9
買い物は計画的にするように心がけている	274	57.2
賞味期限や品質表示マークを確かめて購入する	434	90.6
弁当やファーストフードはほとんど買わない	286	59.7
ペットボトルなどの使い捨て商品ではなく、長く使える商品を購入する	181	37.8
トレイやパックなどで包装された商品は買わず、ばら売りやはかり売りをよく利用する	96	20.0
買い物に出かけるとき、買い物袋を持っていき、レジ袋は断る	210	43.8
買い物をするとき、レシートをもらい、おつりも確認する	383	80.0
もっと多くのリサイクル商品を販売してほしい	226	47.2

②食事・ごみに関する意識・実態

内容	人数	割合(%)
家族全員で食事するように心がけている	325	67.8
外食はほとんどしない	231	48.2
物を大切にして、むだなく使うように気をつけている	374	78.1
物をむだなく、有効に使う方法をもっと知りたい	228	47.6
ごみを出すときは、水を切るなどして量を減らしている	399	83.3
生ごみはごみとして出さず、家庭で堆肥化している	133	27.8
地域のごみの分別方法を理解し、正しく守っている	452	94.4
牛乳パックやトレイなどの資源ごみ回収に積極的に協力している	427	89.1
資源ごみの回収をもっと進めるべきだと思う。	236	49.3

③情報に関する意識・実態_(収集、蓄積、活用、発信)

内容	人数	割合(%)
新聞等には毎日目を通す	406	84.8
テレビ等のニュースを1日1回は見る	461	96.2
県や市が発行している広報によく目を通す	363	75.8
目的がなくても、お店を覗いて商品をチェックする	79	16.5
新しい情報は、人との話から得ることが多い	188	39.2
取扱説明書は保存してあり、いつでも取り出せる	371	77.5
操作が分からない時は、取扱説明書を読む	384	80.2
商品やサービスに不満がある時は申し出る	121	25.3
商品を購入した時、アンケートを出す	85	17.7
商品トラブルがあった時、どこに苦情を申し出るか知っている	230	48.0
消費生活センターを知っている	318	66.4
日頃から環境関連のニュースに関心をもっている	262	54.7

1. ライフスタイルと情報の意識・実態のまとめ

■ 買い物:

賞味期限や品質表示マークを確かめて購入、レシート、おつりを確認

・・・堅実

ばら売り、はかり売りの利用低く、長く使える商品の購入に消極的

・・・環境にあまり関心がない

■ 食事・ごみ:

資源ごみの回収に協力、ごみの分別に協力

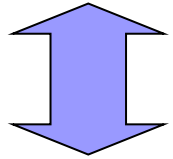
・・・ごみ減量に努力

■ 情報:

簡単な情報収集には積極的

・・・実際に不満を申し出るなどについては消極的

消費者の情報活動



消費者の買い物、食事・ごみに関する意識・実態とは関連がある。

3.情報活動による世帯の類型化

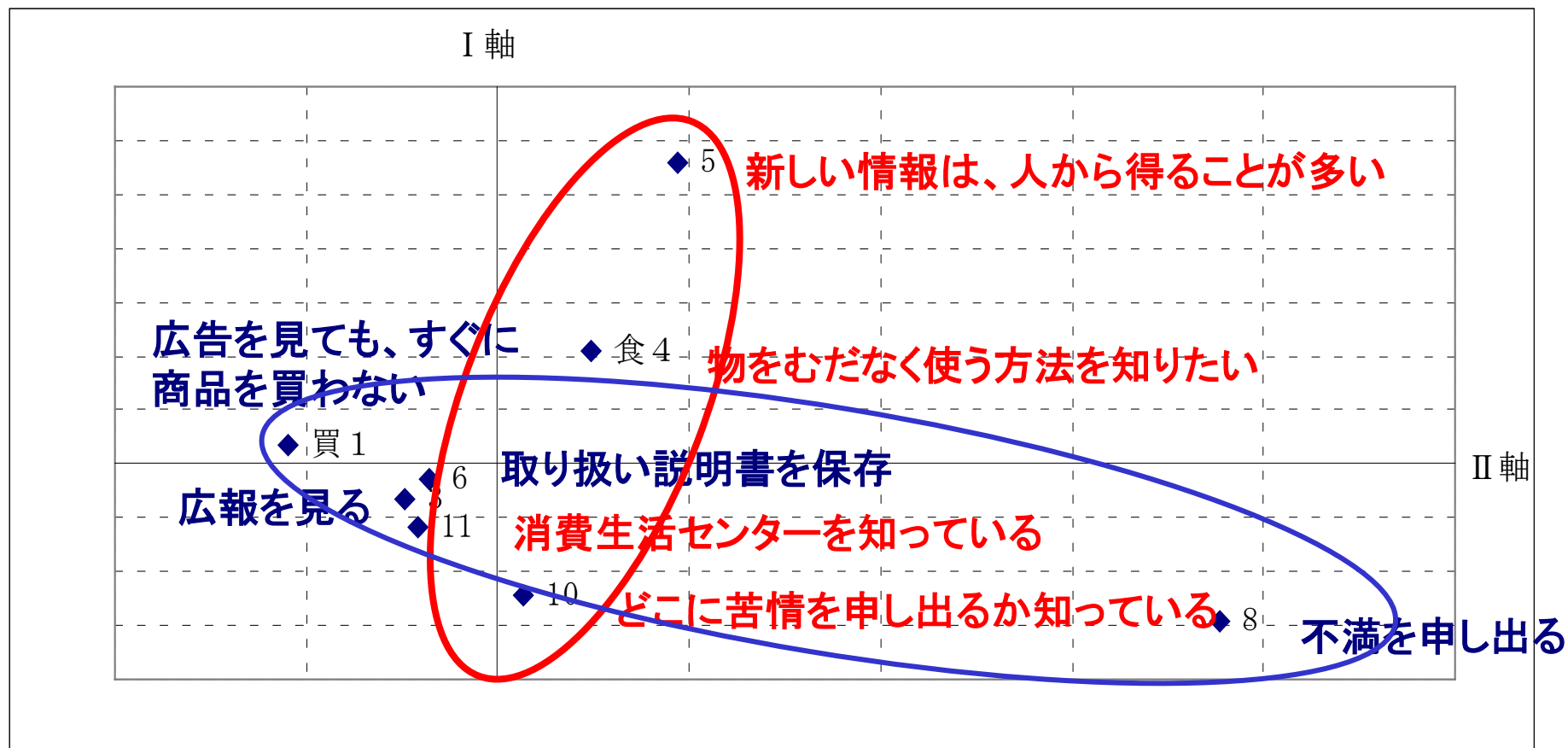
(1) 数量化Ⅲ類

情報意識・実態の項目

- ①コマーシャルや広告をみても、すぐに商品を買いたくならない
- ②物をむだなく有効に使う方法をもっと知りたい
- ③県や市が発行している広報によく目を通す
- ④新しい情報は、人との話から得ることが多い
- ⑤取扱説明書は保存してあり、いつでも取り出せる
- ⑥商品やサービスに不満がある時は申し出る
- ⑦商品トラブルがあった時、どこに苦情を申し出るか知っている
- ⑧消費生活センターを知っている

数量化Ⅲ類による分析

(固有値が高く、解釈可能な2つの軸が析出、寄与率40.5%)

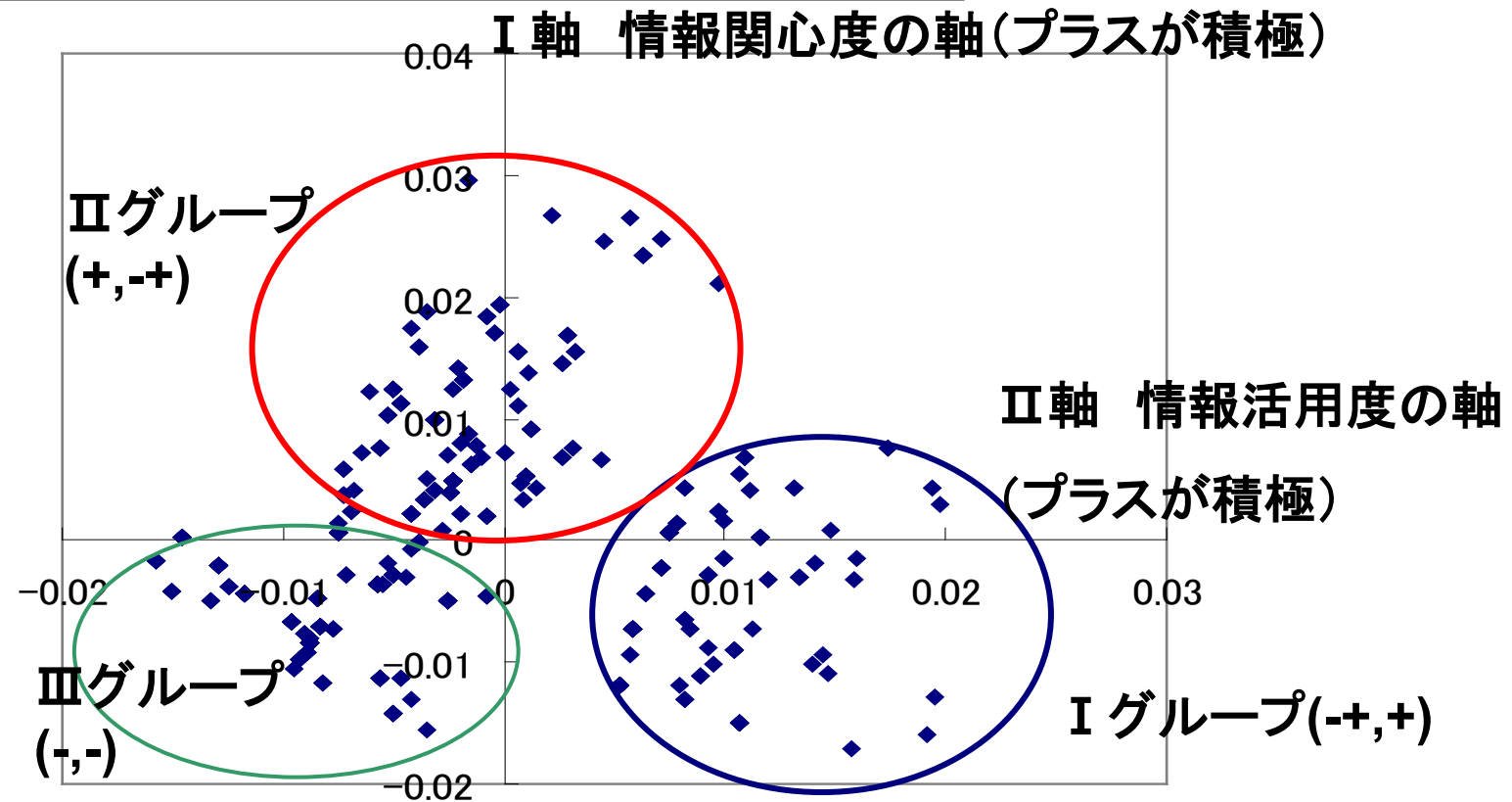


I 軸 情報関心度

II 軸 情報活用度

(2) クラスタ分析

2軸に対する世帯の得点の散布図



クラスター分析によるグループの特徴

	情報関心度	情報活用度	グループ名
I グループ (122世帯)	比較的低い -+	高い +	情報 関心 消極・ 情報 活用 積極型
II グループ (162世帯)	高い +	比較的低い -+	情報 関心 積極・ 情報 活用 消極型
III グループ (185世帯)	低い -	低い -	情報 無関心 ・ 情報 活用 消極型

グループ別意識・実態の特徴

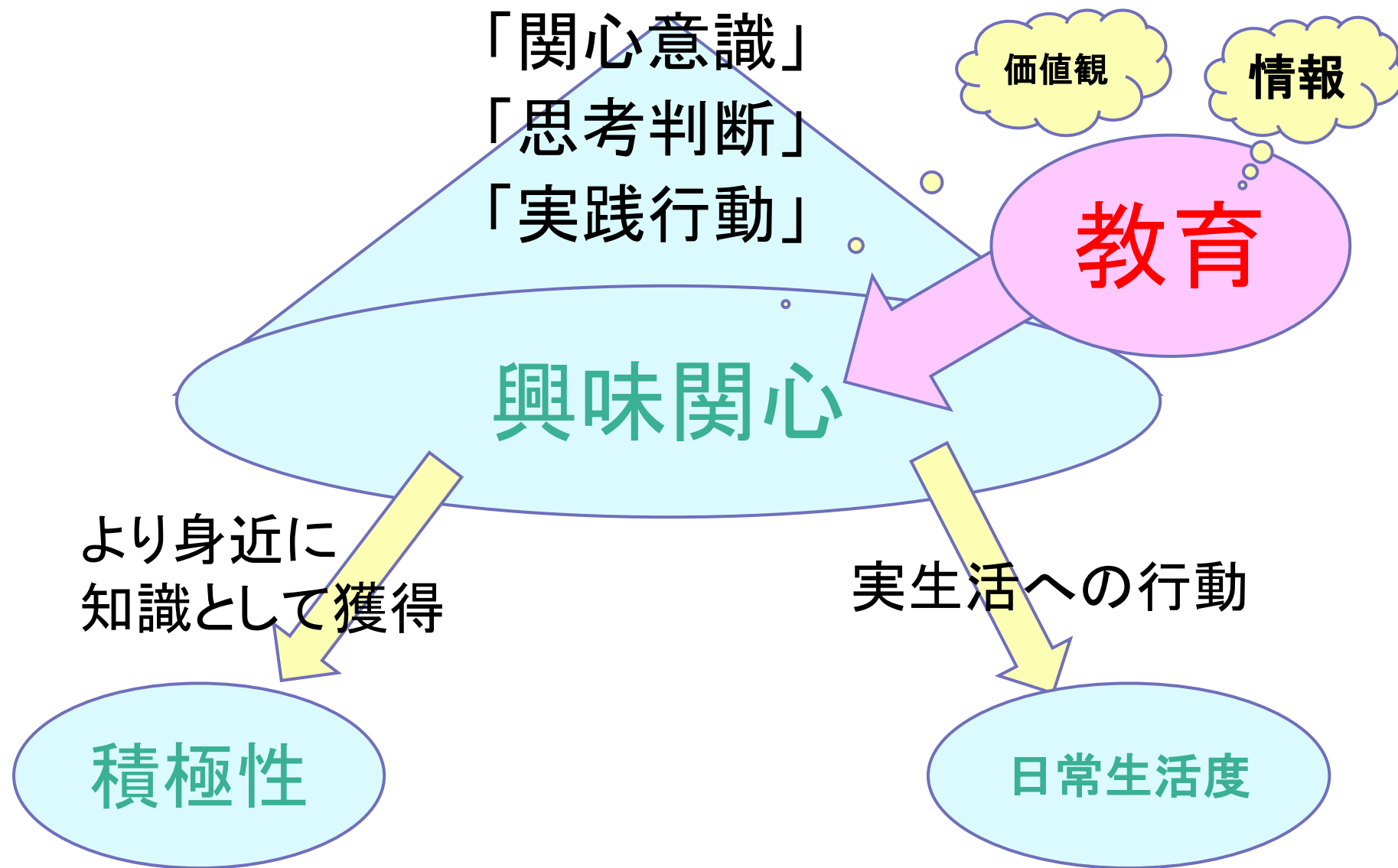
グループ (関心、活動)	グループ名	買い物に関する 意識・実態	食事・ごみに関する 意識・実態	情報に関する意 識・実態
I グループ (-+,+)122	情報 関心 消極・ 情報 活用 積極 型	高い	高い	高い
II グループ (+,-+)162	情報 関心 積極・ 情報 活用 消極 型	比較的高い	比較的高い 知りたい	低い 人から情報を得る
III グループ (-,-)185	情報 無関心 ・ 情報 活用 消極 型	低い	低い	低い 新聞は読む

グループ別購入とごみに関する特徴

	グループの特徴
Iグループ 情報 関心 消極・ 情報 活用 積極型	買い物意識が高いため、購入量は1週目は他のグループよりも多かったが、2週目は調理食品と肉・魚の購入減が他のグループに比べて大きく、それが影響して全体に減少した。 食事・ごみ意識が高いため、ごみ量は紙袋と賞味期限切れの減少が影響して全体に減少した。
IIグループ 情報 関心 積極・ 情報 活用 消極型	購入量は1週目は少なかったが、2週目は変化なし。 食事・ごみ意識が比較的高いため、ごみ量は調理くずと食べ残しの減少が影響して全体に減少した。
IIIグループ 情報 無関心 ・ 情報 活用 消極型	購入量は1週目は少なかったが、2週目は変化なし。 食事・ごみ意識は低いですが、紙袋は減少した。しかし、全体には減少しなかった。

まとめ

- ◆ 情報関心と、情報活用は、両者とも必要。
- 影響する領域が異なる。
- ◆ 今後は、両者が高まるようなしくみを考える必要がある。



「人生設計ゲーム」の実践

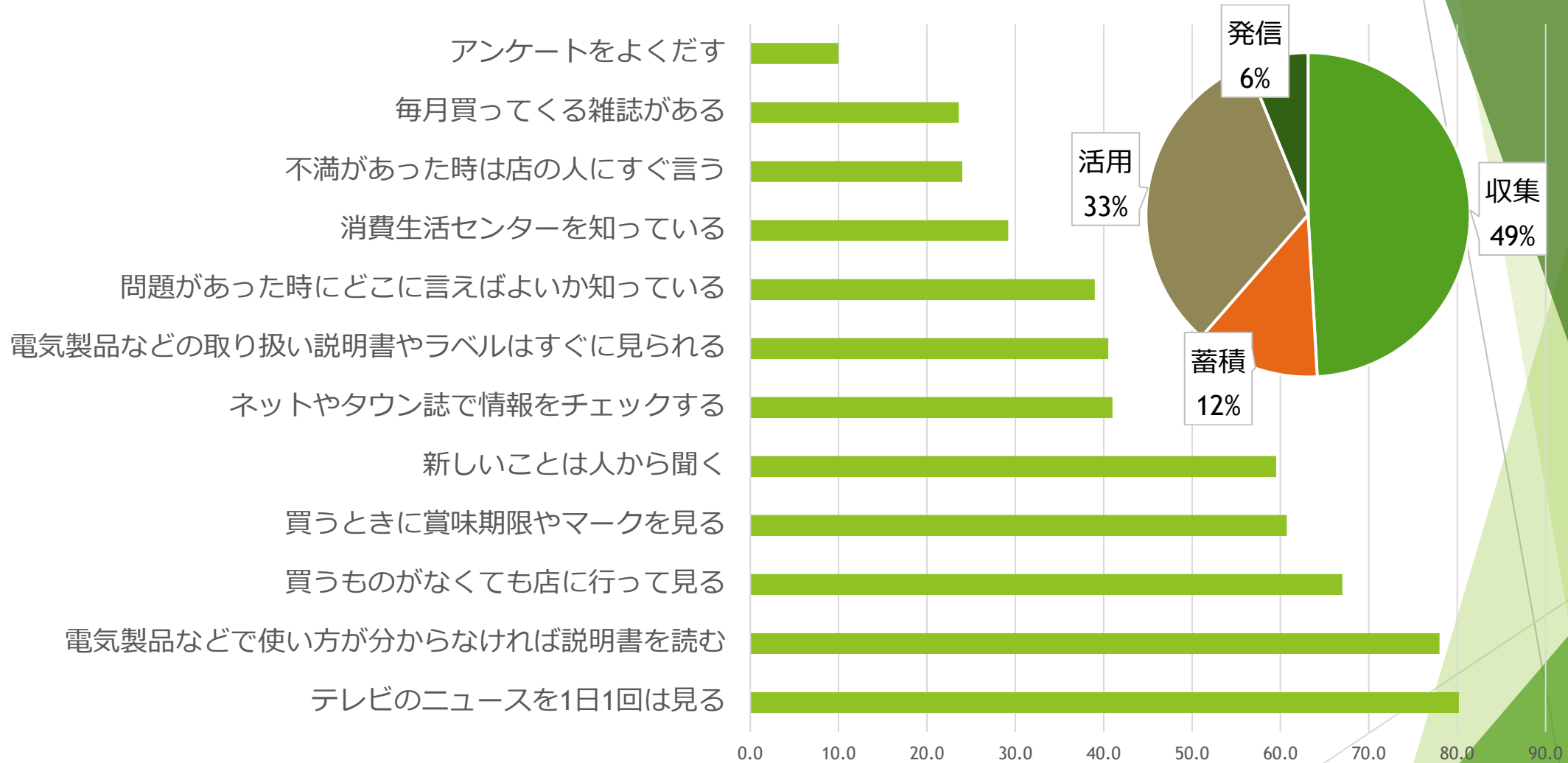
実践した学校

▶ 小学校	2校	3クラス	92人
▶ 中学校	5校	17クラス	510人
▶ 高校	4校	6クラス	252人
▶ 大学	5校	8クラス	125人

合計	16校	34クラス	979人
----	-----	-------	------

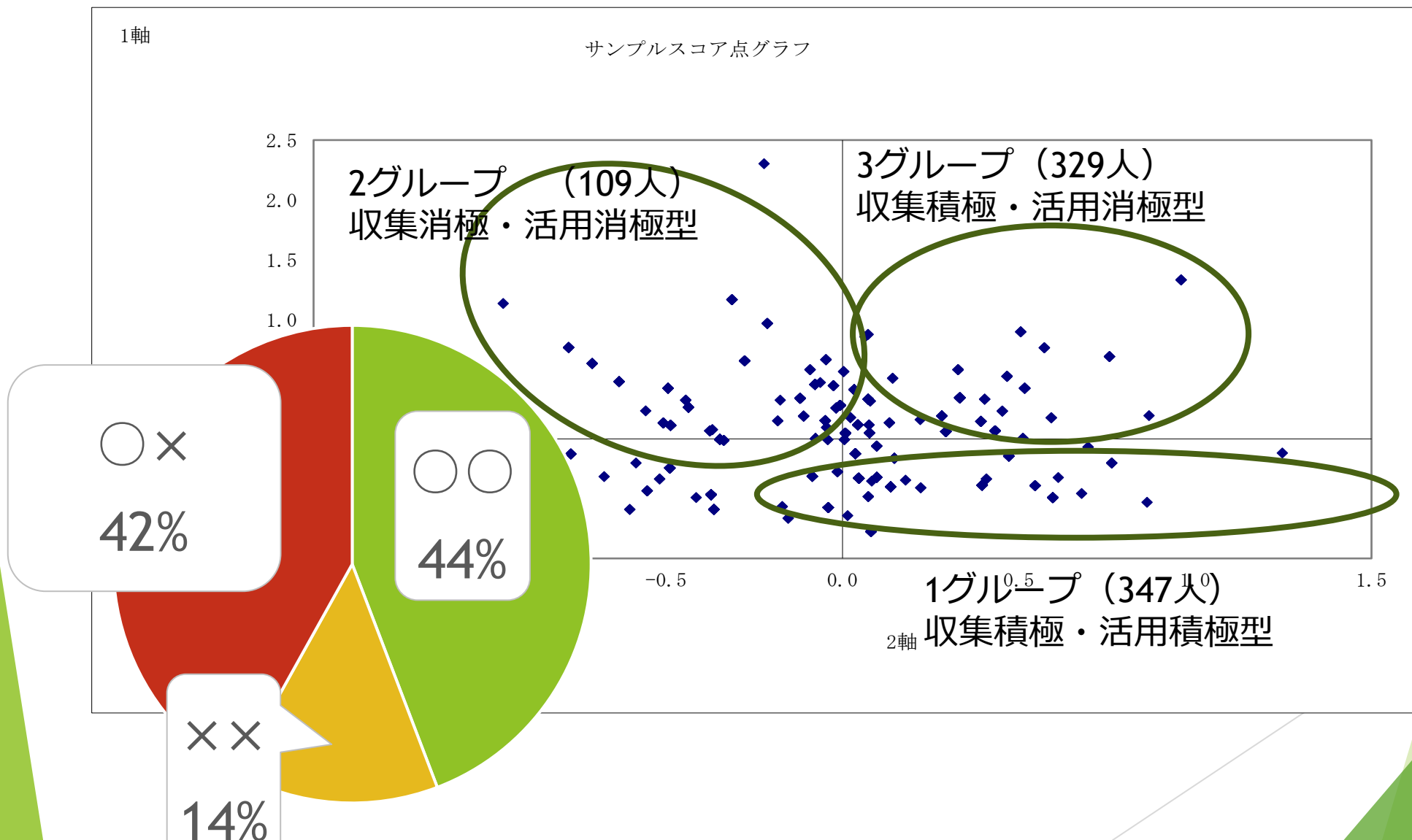
▶ 分析に用いた人数	737人
------------	------

情報に関するアンケート」の結果

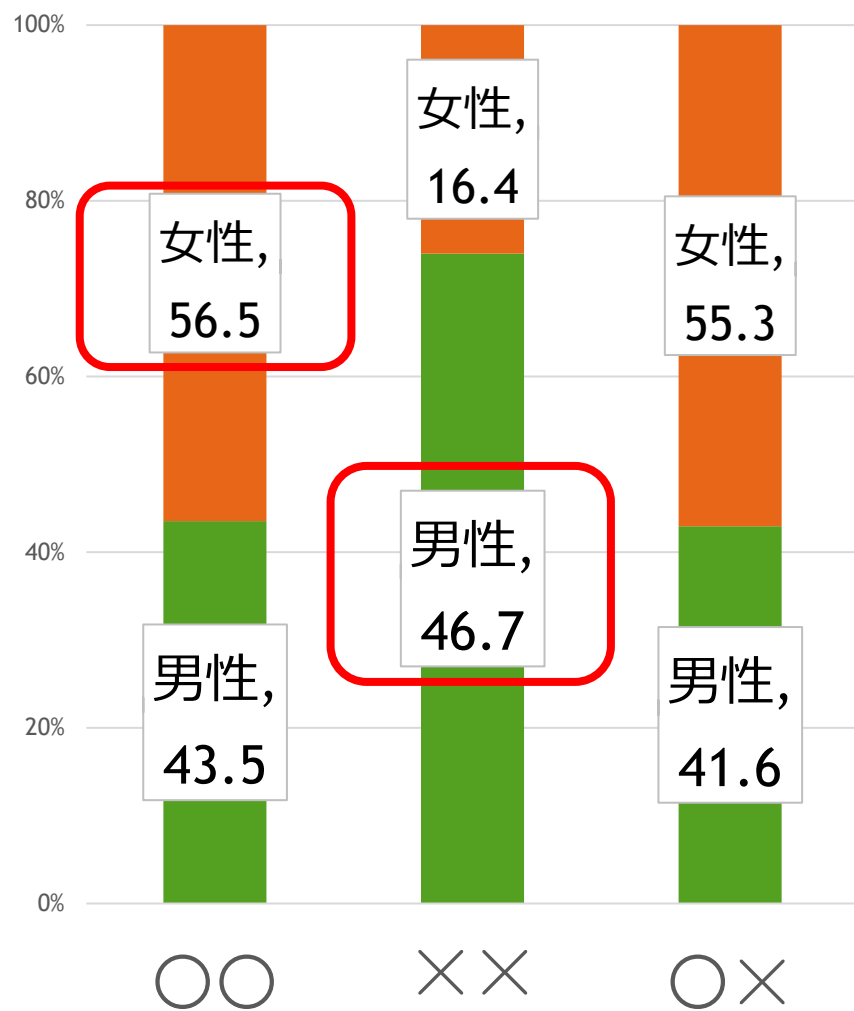


3つの「情報活動グループ」

1軸 活用 (+が消極的)、2軸 収集 (+が積極的)



「情報活動グループ」の属性



①小学生と中学生

- ▶ 小・中学生には、情報の「**活用力**」が「現実把握力」と「人間発達」に大きく影響する。
- ▶ 特に「活用力」を活かすことが、「現実把握力」と「人間発達」によい影響をもたらすことが明らかとなった。
- ▶ このため「**収集力**」をつけると同時に、「**活用力**」を引き出すことによって、小学生・中学生の「現実把握力」と「人間発達」を促すことができる。

②高校生

- ▶ 比較的「**収集力**」が「現実把握力」と「人間発達」に影響することが明らかとなった。
- ▶ 高校生になると、自分の力で様々な媒体を通じて情報収集が容易にできるようになる。
- ▶ このため、「収集力」の差によって、「現実把握力」や「人間発達」に差が生じてくる。
- ▶ 高校生期には、情報の「**収集力**」を高める授業をすると効果的である。

③大学生

- ▶ 大学生では、「**収集力**」と「**活用力**」の両者が「現実把握力」と「人間発達」に影響することが明らかとなった。
- ▶ 特に「収集力」は「現実把握力」に、「活用力」は「人間発達」に影響する。
- ▶ 大学生期には、小・中学生期の「活用力」と高校生期の「収集力」の両者が必要となる。
- ▶ つまり、**情報力をまんべんなくつける**ことが、「現実把握力」と「人間発達」に影響することが明らかとなった。

情報の「収集力」と「活用力」の獲得を支援する教育は、
「現実把握力」と「人間発達」を促す。

これは、消費者教育の枠だけでなく、全ての教育に適用できる能力と言えよう。

事業者ができること……

- 消費者は正しい情報を求めている
- 消費者は学びを求めている
- 学校教育だけでは時間的に限界
- 家庭では教育をしなくなった
- 意識(関心)⇒行動 には大きな溝がある
- ここを埋める情報提供が必要
 - ①事業者からの意識変革を促す情報発信
 - ②事業者からの小さな行動を促す情報発信